

姿勢を「整える」から、暮らしを「支える」へ — 重症心身障がい児・者の姿勢を問い直す —

*日時

3月13日(土) 12:00 ~ 16:30 (受付開始 11:30~)
14日(日) 9:30 ~ 12:30 (受付開始 9:00~)

*場所 (※1日目と2日目の会場は異なりますのでご注意ください)

1日目(3/13)

県民共済みらいホール
(神奈川県横浜市中区桜木町1丁目1-8-2)
<https://maps.app.goo.gl/NEDVCs7LULnLFFDJ9>



左記すべて確認可能

2日目(3/14)

横浜医療福祉センター港南
(神奈川県横浜市港南区港南台4丁目6-20)
<https://maps.app.goo.gl/h5LCXfx75YyDQ4s76>

*定員

1日目 200名 / 2日目 120名

※先着順

*参加費

両日参加 : 会員 6000 円 / 非会員 8000 円
1日目のみ : 会員 3000 円 / 非会員 5000 円
2日目のみ : 会員 3000 円 / 非会員 5000 円

*申込方法

会員 : 11/1(日) 20:00~

非会員 : 11/9(月) 20:00~

下記URL、もしくは右のQRコードから参加申込をお願いします

<https://forms.gle/k63SiWbZL6apDxxS9>

※申込後1週間経過しても事務局からの返信が無い場合、下記問い合わせ先にご連絡ください



*問い合わせ先

第14回 重症心身障害理学療法研究会 事務局 繁田圭一

Mail : jushin.pt.14@gmail.com

*申込締切

1月31日(日) ※定員に達し次第、申込終了いたします

***プログラム内容**

1日目（対面のみ） 定員:200 名

姿勢を「整える」から、暮らしを「支える」へ ー 重症心身障がい児・者の姿勢を問い直す ー

重症心身障がい児・者の「姿勢保持」は、長く研究され討論されてきたテーマです。「正常姿勢」に近づける（整える）ことを重視した時代、変形予防や機能改善を焦点にして姿勢保持をみた時代など、歴史的変遷がありました。

この40年間を見て、姿勢保持は「身体への介入」か「生活環境の計画」か、姿勢保持装置が身体拘束になっていないのか、呼吸・嚥下・摂食をどう配慮した姿勢保持なのか、など多くの課題が紐づけられてきています。

今、姿勢を問い直すことが重要と感じ、今回のセミナー全体会のテーマとしました。

12:10 ～ 13:40 講演 90分

「重症心身障がい児・者の姿勢のパラダイムを問い直す」

奥田 憲一

（当研究会 運営委員／医療福祉センター聖ヨゼフ園 リハビリテーション部 参事）

今回のセミナーのテーマは「姿勢を問い直す」です。

私は、自分の臨床経験を問い直したいと思います。

つまり、過去の自分がどういったパラダイムの中で「重症心身障がい児・者の姿勢」をみていたのか。そして、そのみかたのどこが誤りだったのか、そういったお話ができればと思います。

13:55 ～ 15:25 講演 90分

「重症児・者の暮らしを支える姿勢ケア」

岸本 光夫 先生

（重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎 作業療法士）

本タイトルの大切な視点は、「生活の中で、いかに多様性のある姿勢を、その必要性に合わせて取り入れていけるか」ということである。そしてこの時、健常者とは異なる一人ひとりの適応性を考慮した、安全安楽で優しい対策が求められる。このことを、私の経験を紹介しながら再考していきたい。

15:40 ～ 16:30 全体討議・質疑応答

全体討議 座長：高塩 純一（当研究会 代表）

16:30 セミナー終了

懇親会（自由参加）

18:00 ～ 横浜中華街にて開催予定

2日目 (対面のみ)各論セミナー(全6講座)

定員:120名

セミナー2日目は、前回に引き続き、6つのテーマの各論セミナーを企画しました。

※各セミナーに定員を設けております。

お申込時に第1希望、2希望(キャンセル待ち含む)をお選びいただき先着順にて参加講座が決定いたします。
予めご了承ください。

9:30 ～ 12:30 各論セミナー ※昼食時間は含みません

①呼吸・嚥下 (定員:16名)

金子 断行 (株式会社目黒総合リハビリサービス)

繁田 圭一 (伊豆医療福祉センター)

ヒトは進化の過程で魚類の鰓弓筋から顔面/嚥下/呼吸筋群が分化した。顔面筋活動で嚥下に必要な鼻呼吸が、呼吸筋による胸郭の挙上で嚥下に有効な胸式呼吸を実現できる。呼吸と嚥下は相互関連して発達するので、呼吸/嚥下は同時並行治療する。

最終目標は日常的な安静呼吸と唾液の処理能力である。今回、上気道閉塞と唾液嚥下に対して下顎に焦点化したハンドリングを紹介する。※今回は前半の講義部分を繁田が担当します。

②姿勢 (定員:20名)

奥田 憲一 (医療福祉センター聖ヨゼフ園)

長谷川 大和 (ハビリス横浜)

今回のセミナーのテーマは「重症心身障がい児・者の姿勢を問い直す」です。

2日目の各論セミナーでは、1日目にお話した内容を実際の実技の中で振り返ってみたいと思います。さらに重症心身障がい児・者の臨床場面での姿勢の評価と解釈、理学療法プログラムへの展開、さらにポジショニングの考え方、といった一連の流れを臨床場面での考え方を特に意識しながら、皆さんと考えていきたいと思っています。

③シーティング (定員:20名)

花井 丈夫 (医療法人 拓 能見台こどもクリニック)

岡田 雄一 (四天王寺和らぎ苑)

シーティングについて、日々臨床で考えていること実践していることを参加された皆様と共有するとともに、事例を通してディスカッションを行い、張り調整など機器の体験、評価のポイントなど共有しあい、討論したいと思います。

参加者の皆様がシーティングについて疑問に思っていること、悩んでいること、この機会に話してみたいことを共有できる場にしたいと考えています。

是非、参加される皆様からの事例提示もよろしくお願い致します。

④評価 (定員:20名)

黒川 洋明 (島田療育センターはちおうじ)

北山 良平 (広島県立総合リハビリテーションセンター)

「その人らしさ」を支えるために、私たち何を評価し、どのように理解を深めていけばよいのでしょうか。本ワークショップは、講師から一方的に知識を学ぶ場ではなく、参加者一人ひとりが日頃の経験や疑問、考えを持ち寄り、対話を通して学び合う参加者主体の場です。さまざまな視点に触れながら、自分自身の評価を振り返り、明日からの実践につながる新たないとぐちを一緒に探します。

※本ワークショップは、小児リハ経験7年目 以内の方を想定しています。

⑤地域 (定員:24名)

辻 清張 (こども発達支援センター のびろ)

要 武志 (株式会社リ・ハピネス すりーぷーす)

近年、小児の理学療法士が働く場は多様化してきています。病院、療育センター、訪問看護、特別支援学校、児童発達支援、放デイ、保育所等訪問、自費サービス等々。働く場所や地域によって求められるものも違い、戸惑いも多いのではないのでしょうか。

このセッションではそれぞれの悩みを共有し、重症心身障害があるこどもや当事者の方々に理学療法士として何ができるのかをテーマとしています。ご参加お待ちしております。

⑥スパイダー (定員:20名)

高塩 純一 (びわこ学園医療福祉センター草津)

上原 隆浩 (枚方総合発達医療センター)

本研修では、SPIDER の装着方法やコード設定といった基本的な使い方だけでなく「中動態」と「ゼロキネステーズ」の観点から、セラピストの関わり方そのものに焦点を当てます。子どもの動きを“させる”のではなく、共に環境をつくり、動きの生成に寄り添う在り方を学びます。子どもが自らの身体感覚に気づき、能動的に動きを選択できる支援とは何かを考える機会となります。